

# Eureka XI

六年制通信 No.7 令和5年5月25日(木)号

## カンニングの時代

太宰治の『走れメロス』を初めて読んだのは小中の頃、という人が一番多いですかね。私は中学の何年生か忘れましたが、読書感想文の宿題で読んだのではなかったか。大人になってからシラーの書いた元のお話も読みました。『走れメロス』は短篇ですし内容も単純ですが太宰の文章がうまいので何度も読んできました。そのつど新しい発見があって楽しいのです。つまり自分がこの物語のどこに魅力を感じるかが違うのですね、年齢によって。今も読み返したのですが、やはり小さな発見はありましたよ。

そう言えば、ダウンタウンの番組でこの物語を取り上げたことがありました。あれ、笑ったわ。文中にある「沈んでいく太陽の十倍もはやく走った」というのを実際に計算し、メロスのスピードはマッハ 11 だったと結論を出したのです。ということは、彼は 100m を 0.02 秒で走ったことになるわけ。また、このスピードで物体が移動すると衝撃波により、物体すなわちメロスを中心として半径 2 キロ以内の窓ガラスは全て割れると。メロス、走ったらあかんがな。そんな話を面白おかしくしていました。

さて、最近 ChatGPT でしたか、必要なデータを入力すると人間に代わって例えば「志望動機」や「読書感想文」などを書いてくれるシステムがあるそうですが、カンニングですよ。この使用については国によって規制をかけたりしているとか。国会の答弁をこれにさせるとかせせないとか、そんな話も聞きましたが実際どんなレベルなのでしょうね。私はそういうシステムの操作はできないので、できる人にちょっと頼んで『走れメロス』の読書感想文を、中学生が書いたのと小学生が書いたのと二つ見せてもらいました。それぞれ 600 字くらいですが、一部を抜粋します。

中学生レベルの抜粋：正義を守るためには、勇気や決断力が必要であり、自分自身の利益よりも社会全体の利益を優先することが大切だと感じました。…(略)…私たちは、自己犠牲ができる人間であり、自分自身の利益よりも他者の利益を優先することが、社会に貢献することにつながることを学びました。

あはは。これは入選するレベルではないね。ちょっと期待外れでした。同じ内容をいくつかの抽象的な表現にしているだけで、本当にこの物語を鑑賞しているとは思えません。『走れメロス』を読んで社会貢献という言葉は出ませんよね。では小学生レベルではどうなるのでしょうか。これ、ちょっと驚きますよ。

小学生レベルの抜粋：そして最後に、愛についても教えてください。物語の終わりで、メロスは恋人のイシュタルと再会します。二人は互いに愛し合っており、その愛がメロスを生きる力にしてくれたのです。愛は、人生の中で大切なものであり、人を支える力になることを改めて実感

しました。…(略)…愛を大切にすることが、幸せな人生を送るために必要だと感じました。

何ですと?!メロスが誰と再会したって?「その愛がメロスを生きる力にしてくれた」も意味が分からない。いくら小学生でも「その愛がメロスに生きる力を与えてくれた」くらいは書けないとね。そもそもこの感想文の「メロス」の部分の伏せておいたら誰も『走れメロス』の感想文とは思わないでしょうね。

私は今、ChatGPTの実力が低いと言いたいわけではないのです。入力の方法によっては、入選レベルの感想文が書けるのでしょうか。今後、さらに進化するでしょうし。Googleの翻訳アプリや、数学の問題を写真に撮るだけですぐに解答が示されるPhotomathのようなアプリもありますね。社会の風潮を表すのに「一億総〇〇」という言い方を昔はよく使いましたが、それに倣うと、これからの世の中は「一億総カンニング時代」になりそうですね。いや、大学によってはネットの情報だけで講義を展開するところもあるらしいので、もうすでにカンニング時代を迎えているのかもしれませんが。こわっ。でもね、カンニングできないものもありますよ。読書で言えば、読むのが入力で読書感想文を書くのが出力でしょう。機械が私の代わりに入力しても私の精神は豊かにはなりません。この入力だけは人間が自分の手で行う以外ありません。それに、本当に入力出来たのなら自分の力で出力したくなりますよ、きっと。

#### 今週のおすすめ

・水野敬也 『神様に一番近い動物』 (文響社)

副題が「人生を変える7つの物語」です。あっという間に読める短篇集です。物語に入る前にバリー・H・ロペスという人の言葉が引用されています。「人は生きるために、食べ物よりも物語を必要とすることがある」です。いい言葉ですね。私も本当にそう思います。純文学、大衆小説、推理小説、自己啓発本、古文漢文など、古今東西の人類が紡いできた物語は膨大です。肉体を養うには食べ物が必要ですが、私たちの精神を広く大きく柔軟にするには多くの物語が必要です。物語の海は果てしなく広く大きいので、私たちはどの河口を通してでも海に漕ぎ出すことができます。

一つ目の物語は「三匹の子ぶたなう」です。レンガ、木、ワラの家に住む子ぶたたちの前にオオカミがやってくる。オオカミはポケットから一冊の本を取り出す。タイトルは『三匹の子ぶた』。えっ?ということはあの物語を知っているということやね、このオオカミは。さて、ではこの後一体どうなるんでしょうね。三つ目の「宇宙五輪」も面白い。最下位になった星の住民は食べられて、星は滅んでしまう。人間だけの力では勝てないので、チーターに100m走に出てほしいと頼む。断るチーター。説得する人間。この辺も面白い。チーターの他にもゾウの砲丸投げやゴリラが投げてキリンがキャッチしてそのままタッチダウンするアメフトなど、動物たちと協力して最下位脱出を図る人類。最後の「神様に一番近い物語」は革ジャンにされることが決まった仔牛の物語。これは考えさせられます。最後に、人間の言葉がわかるネズミが仔牛の気持ちを文字にする。これ、皆さん読んでほしいな。泣けますよ。

BGMは サザンオールスターズの いとしのエリー でした…。